

全国に54のホテルを運営するHMIホテルグループ主催

## ～インド映画上映会～



### “MANTO”

昨年10月、ご好評をいただきましたインド映画上映会を今年も開催いたします。皆様お誘い合わせの上、ぜひご鑑賞ください。

- 日 時 2019年10月11日 (金)  
18:45～20:45 (開場18:15)
- 会 場 公益財団法人早稲田奉仕園スコットホール  
地下鉄東西線「早稲田駅」出口②より徒歩約5分  
〒169-8616 東京都新宿区西早稲田2-3-1  
電話03-3205-5403  
E-mail [program@hoshien.or.jp](mailto:program@hoshien.or.jp)  
URL <http://www.hoshien.or.jp>
- 共 催 公益財団法人早稲田奉仕園  
公益社団法人在日インド商工協会 (ICIJ)  
ホテルマネジメントインターナショナル株式会社 (HMI)  
<http://www.hmi.co.jp>
- 後 援 公益財団法人日印協会 (JIA)  
協 力 東京外国語大学 T U F S Cinema  
藤井美佳 (字幕翻訳者)
- 入場無料 先着200名

## あ ら す じ

---

1946年。インドはイギリスからの分離独立へと向かう動乱期にあった。人気作家マントー（ナワーズジッディーン・シッディキー）は、戯曲の才能にも優れ、ボンベイを拠点に活躍していた。多くの友人に囲まれ、妻サフィア（ラシカー・ドゥッガル）はよき理解者として夫を支え続けた。1947年8月インド・パキスタンが分離独立すると、国内外で宗教対立が激化。マントーは、インドのボンベイからパキスタンのラホールへ移住を迫られる。この頃、作家としての危機を迎えつつあった。

性をありのままに描く作風は検閲の対象となり、長期に及ぶ裁判に苦しめられる。言論と表現の自由に対するマントーの声明は、自信と確信に満ち、揺るぎないものであったが、やがて酒に耽溺するようになり、生活は荒廃していった。

- ・ [鑑賞の手引き](#) TUFSCinema 南アジア映画特集
- ・ 監督・脚本・製作 ナンディタ・ダース（NANDITA DAS）



インドを代表する映画俳優、監督。これまで10以上の言語と地域の監督作品に出演。カンヌ国際映画祭で審査員を二度務めるなど、その活動は世界的に評価されている。

『炎の二人』（1996、原題：Fire）、『1947 Earth』（1998）、『Firaaq』（2008）、『Ramchand Pakistani』（2008）（以上、日本劇場未公開）など、ヒンディー語映画を中心に多数出演。初監督作品『Firaaq』では、2002年にグジャラートで発生した反イスラム暴動の余波を描き、国内外の映画祭で非常に高く評価された。2011年、Women of Worth (Dark is beautiful) のキャンペーンに賛同し、肌の色への偏見に対し声明を発表。10年ぶり2作目となる本作『マントー』（2018）では、インド・パキスタン分離独立の動乱期を生きた

マンターの生涯を映画化、大胆な表現を恐れない作家の姿を描き、表現の自由についての普遍的なメッセージを送っている。この作品をカンヌ国際映画祭ある視点部門に出品、アニエス・ヴァルダ、ケイト・ブランシェットら世界の女性映画人とともにウィメンズ・マーチに参加して、世界に男女格差是正を訴えた。

2018年      カンヌ国際映画祭ある視点部門出品。  
アジア太平洋映画賞主演男優賞、  
フィルムフェア賞、  
衣装デザイン賞など受賞。

※この映画の詳細は、こちらへアクセス：

<https://www.imdb.com/title/tt6923462>

### 会場ご案内

